

医師の情報提供によるマスコミ報道を利用した労基署の臨検に抗議する声明

～厚労省を批判した情報提供者の人権に配慮しない行政圧力は言論封じにつながる～

2024年11月26日

全国医師ユニオン代表 植山直人

2024年11月13日の東京新聞で「病院の時間外隠し急増」との記事が報道されたが、翌14日、この記事の取材に協力した医師が勤務する病院に、突然労基署が約束もなく臨検に訪れる事案が発生した。

東京新聞の取材を受けた医師は、本会、全国医師ユニオンの事務局長を担っており、厚労省が「医師の働き方改革」の名の下で乱発する、不当な宿日直許可に関して憤りを感じ、これを適正化することを求め取材に協力したものである。一方で、当該医師は自らも宿日直を担っているが、同院の労働実態は厚労省が認可した宿日直許可の基準を満たしたままの状態であり、それ以上の問題があるわけではないことから、労基署に訴えることは行っていない。労基署へ訴えても、現在全国で乱発されている不適切な宿直許可の根本的な解決には結びつかず、医師の働き方は改善しないと考えているからである。この問題の背景には絶対的医師不足を放置する医師数抑制政策や、医師の労働者としての権利の剥奪、医療従事者の人件費を適切に評価していない低い診療報酬の問題などがある。このため当該医師はマスコミにこの問題を広く公表してもらおう事を望んで、実名で取材に協力したものである。

日弁連は報道の自由に関して「報道のあり方と報道被害の防止・救済に関する決議」を発表しているがそこには以下のように述べられている。

「市民の『知る権利』は、民主主義の根幹をなすものであり、報道の自由は、それに奉仕する重要な役割を担っている。

戦後、憲法による報道の自由の保障の下に、新聞・雑誌・週刊誌・テレビなどのマスメディアは、市民の知る権利に応えるべく、政治・社会・経済など各分野で重要な取材・報道を行い、民主主義の発展のために大きな役割を果たしてきた。また、決議の提案理由として「マスメディアは、市民のために、立法、行政、司法の各分野を十分に監視し、また、環境、福祉、労働、消費者問題などの社会経済上の諸問題についても広く取材し、市民が必要とする情報を報道することを期待されている」とも述べている。マスコミに求められていることは政府の情報操作に利用されないために現場の取材をしっかりと行い事実に基づく報道を行うことである。当該医師はこの報道の自由の目的に寄与するために取材に応じたものであり、今回の労基署の臨検は、報道に対する圧力と解釈することもできるものである。

一方で日弁連は公益通報者保護の点から今年 8 月 22 日に「公益通報者保護法の更なる改正と制度の充実を求める意見書」を発表し、公益通報者保護法の強化・徹底を求めている。今回の医師の報道機関への協力は、単独医療機関を告発するものではないが、医師の働き方改革の実態を社会に告発するものであり、公益通報に準ずるものと考えられる。現状では、該当医師の勤務する病院は冷静に対処しており、不利益は生じていないということであるが、今回の報道翌日の労基署の臨検は、その危険性を強くはらんでいる行動であり、厚労省への批判をおこなう医師に対して、その勤務先を通して強い圧力を生じさせるものである。今回の事案では厚労省の出先機関である柏労基署が病院に直接圧力をかけている。厚労省が柏労基署に指示したかどうかは不明であるが、しかし客観的には厚労省批判を行ったものに対する厚労省による干渉であり、今後に渡る口封じであると評価せざるを得ない。当該医師は病院名のみならず氏名も公表しているため、柏労基署は事前に本人の意向を確認することも可能であったはずであるが、一切そのような配慮は行われていない。

当該医師が求めているのは、宿日直許可の乱発を見直すこと、医師の労働者としての権利を認めること、それを保障するための夜間の医療体制整備であり、厚労省に求められているものは全国的な実態調査と宿日直制度運用の適正

化、および抜本的な勤務医の増員である。

全国医師ユニオンは、この間、長時間労働問題、ハラスメント問題、無給医問題、地域枠問題など様々な問題で声明を出し、会見を開き社会に訴えてきた。しかし、マスコミの個別の医師への協力依頼に関しては、協力者が特定され不利益を受けるリスクが高いため、極めて困難な状況に置かれている。今回のような事案が起これば、現場で理不尽な思いを持つ医師の取材協力はますます困難となる。

私たちは、現場の医師の取材協力に基づく報道を理由に一医療機関への臨検等を行なわないこと（本人が労基署に訴えている場合を除く）、ならびに、すみやかに宿日直許可病院に対する全国実態調査を行うことを求めるものである。

最後に、今後は報道機関への取材協力者に対しては公益通報に準ずるものとして、その保護の視点から十分な配慮を行うことを強く求めるものである。